

2014年(平成26年) 6月23日(月曜日)

東洋特殊鋼業がステンレス角形鋼管

7月から量産販売

角部1_ミ以下、コスト・工数削減に寄与

東洋特殊鋼業(本社・大阪市西区、武藤賢一社長)は、コーナーエッジを1_ミ以下に仕上げたステンレス角形鋼管(SUS304)の「TK保304SE」(写真)を開発し、7月から量産販売を開始する。中空及び軽量化によるコスト削減と、角出しのデザインで溶接加工の工数を削減する強みを生かし、拡販を狙う。

「コーナーの角度がよりシャープな角パイプを」との顧客ニーズに応え、当初設計の1・5_ミからさらにエッジを小さくした。商品名のSEはシャープエッジを意味する。同サイズの平鋼に比べて最大55%の重量削減になる。隣り合う平板部分の角度は±1・0度、曲がり・ねじれは1_ミにつき1_ミ以下といった独自の寸法公差で高精度の製品を提供する。

サイズは横置きの高さが12・16・19_ミの3種。幅は43―77_ミの間で各4種を設定。長さ(定尺)4_尺、肉厚はすべて3_ミ。角部寸法を1_ミ以下にしたことで溶接加工の肉盛り工数を大幅に低減する。中空化で実際の重量は抑えながら、厚みを持たせたことで重量感のあるデザインに仕上げた。表面には鈍い光沢があり、ヘアライン研磨や鏡面仕上げにも対応する。

同社では東京五輪や都内再開発などの案件でモニユメントや内装関係のステンレス鋼管の引き合いが増加すると見込む。直近では都内の著名物件で高層階の手すりに異形管が採用された。またTTP対応で国内の加工食品メーカーによる工場建設もあり、食品・薬品機械、水処理機器などにも展開する。

